

あどぼけいと

HSK

1973年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻番号565号
発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会
発行日=2019年4月10日(毎月10日発行)
編集者=我妻 武
◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ
〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
ホームページ <http://npolife.net/>

2019年4月号

No.217 [April] 定価 100円

あどぼけいと [advocate] = すべての人がもつ権利を、障害などさまざまな理由で行使できない状況にある人に代わり、権利擁護のための活動を行っている人々の事。

特集

「共同連」 きらない・わけない・さべつしない

P4~7

■表紙 「春の訪れふぎのとう」

■はじめに

何かと気ぜわしいこの時期です。

様々な会社の業績見込みなどのニュースが入ってきますが、ライフの決算はもう少し先になります。予想では赤字になることはなく、何とかメンバーやスタッフにも少しだけ還元できそうです。しかしながら、住居と作業場の建物については、なかなか実現に至りません。

法人として無理な借金もできないのですが、多少の無理をしないとライフのメンバーも年を取りますし、そのことで障害も重度化してきます。ましてやサポートをしてくださっている親御さんたちも同様です。だからこそ快適な住環境と作業場は必須です。

しかし、なかなか最適な土地が見つかりませんが、諦めることなく引き続き探すことと、より快適な賃貸物件も含めて探していきたいと思っています。

■個人的な総括

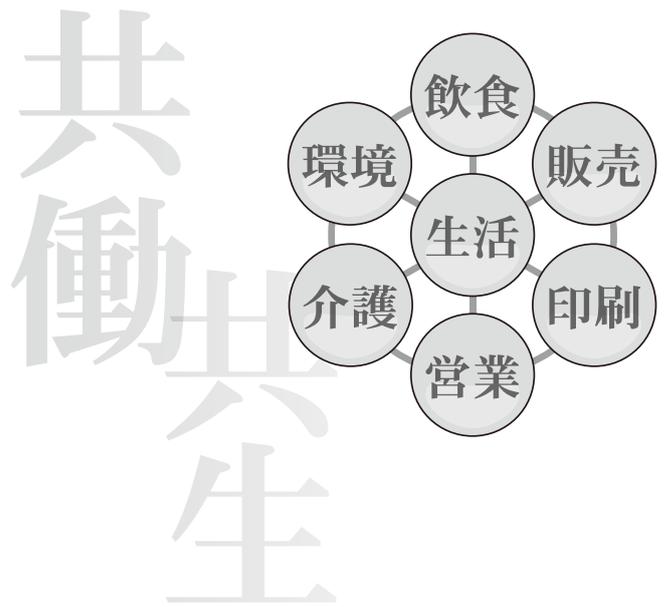
昨年初めに大腿部の骨折で3か月入院をし、予後(術後の傷)が良くなく通院をいまだにしています。さらにここ3年ほど大切な人を次々と野辺送りをしてきました。心も体もさすがに辛いですね。こんなことだと思っていたのですが、あとからあとからじわりと押し寄せてきています。そんなわけで昨年はほとんどライフのことに関わることができませんでした。実に頼りない理事長です。

冒頭にも書きましたが、ライフは新たな活動の場を展開するためにも、ここ数年が正念場です。メンバーやスタッフの仕事や生活は待ったなしです。さらによりアクティブに活動していくためにも私自身の決断もしなければいけません。

■昨年の地震から見たこと

昨年9月にあった北海道胆振東部地震は、北海道全体が停電(ブラックアウト)する事態に見舞われました。

ライフでも共同住居に避難する人や、不安になり事業所に来るメンバーもいたそうです。予定していたバザーも中止となり、急ぎよ石澤さんが指示を出して、たこ焼きを作り、地域の方々へ配布したそうです。これでライフの活動を始めて知った(関心を持った)という方もいたそうです。私自身は日頃から災害対応の最低限の準備をしていたこともあり自宅にこもっていましたが、ご近所から色々なサポートをしていただきました。



ライフでは、地震の後に近くにある区民センター前広場でバザーを行いました。こちらにも多くの方々に参加いただきました。こちらには連合町内会の会長さんにも協力いただきましたが、ここでも地震時の話となりました。何が大変で、何を必要とするのか。地震からの話ですが、「障害者」の抱える問題にも共通のことがあると感じました。そして、石澤さんが日頃から言っている「お互い様」の関係づくりをしていく。

私たちのことを知ってもらうということは大変なことですが、こちらからウイングを広げて地域へ出ることの大切さを昨年あった地震を通じて改めて感じました。

■新年度の活動に向けて

ライフでは以前から内部での工賃、賃金格差をどう改善していくかということを目指していますが、そのためには現状の事業の見直しと新たな事業の構築が必要であると内部で話が出ています。一昨年に立ち上がった三委員会(暮らし、仕事、縁づくり)でも様々なテーマで話し合っていますが、試行錯誤しながら少しずつ実践につながっていくだろうと思っています。

従前からアドボケートで書いていますが、

- ライフでの差別をなくすことに努力しよう
- 共働、共生について改めて考えよう
- 快適な住環境と作業環境をみんなで作っていこう
- 同じ地域の中にいらっしゃる市民と交流していこう
- そして、賛同してくれる仲間を増やしていこう

こうしたことを思いながら、ライフの理念を実践していくことにしたいと思います。

きばりや、カフェ・ド・キバリア

前年度は本体のメインの仕事であった農業が6月に終了し、次の仕事が決まらないままの中、みんなで色々な仕事にチャレンジしてきました。無理なスケジュールを組んでしまい、みんなに相当な負担をかけたこともあったんじゃないかと思います。本体、カフェともに新しいスタッフ体制となり、なかなかうまく仕事を回すことが難しい状態ですが、売り上げアップ出来るように努力していきます!!

たねや

4月からライフは新体制になり、私と同年代の人たちが中心となってライフを続けていきます。この激動のタイミングで会社にいられることをうれしく思います。今までのライフを大切にしながら、たねやの売上が普通の店舗と変わらない位に上がるように、これまでと違う新しい動きも取り入れて皆で頑張っていきます。たねやの所長として一皮向けていきたいです。

元気ジョブ

元気ジョブは今年度で開設10年を迎えます。お陰様で札幌市役所や他官庁はもとより、民間企業からの作業依頼も年々増え成約金額も今年度は約1億5千万円になりました。新年度もこれまで以上に工夫をした営業を心掛け、いち事業所でも多くの事業所に作業依頼がかけられるよう、更に高い目標を設定して挑戦してまいります。

相談室

ライフを利用している皆さん(ユーザーさん・スタッフさん)が幸せになること。嘘つきは戦争の始まり。沖縄の皆さんの負担軽減と、北海道や福島の皆さんの一日も早い復興が実現すること。泊原発は一日も早く、廃炉にすること。とばく場は、北海道に作らないこと。実現するためには皆さんとりあえず、4月7日の統一地方選の投票所へ。

ゆい

ライフは新年度から若い職員さんたちに引き継いでいく方向でスタートしたいと思っています。繭結も責任者、職員に引き継いでいこうと思っていましたが、一人の責任者が今年度で退職となるため、体制を再度立て直し、進めていくこととなります。ヘルパーさんの確保が例年の課題となっていますが、一人でも多くの利用者さんの対応ができるようにして、利用者さんの希望が聞けるように頑張っていきたいと思います。これからも皆様の支援宜しくをお願いします。

ひだまり

新年度はライフ30周年を迎え、さらなる飛躍の年にしたい。とどっかの政治家の挨拶みたいになってしまいました。新年度は新たな体制でいくと思いますが、ライフビル建設という「共生共働の場」を大きな目標を掲げて、メンバー、スタッフ、応援してくれる方々とともに、作っていききたいと思います。そのためにも私自身もっとメンバーのことを考え、伝えていかなければならないと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

ころや

年が明けてもう3ヶ月が過ぎようとしています。街の雪もとけて歩きやすくなりました。ころやの皆さんも春に向かって元気良く取り込んでいる最中です。新しい年度を向かえる皆様の期待も陽気に膨らんで、雰囲気も明るく感じているところです。その期待を背負ってスタッフ一同も安心安全に居られる環境を築き保つように頑張ります。何より皆さんのテンポに合わせ進み、一人一人が自分らしく堂々と生き、お互いが心分かち合う空間になれるよう頑張ります。

もじや

新年度がついにスタートしました。そしてまもなく5月1日からは新たな年号が制定されます。皆さんも今から長期連休がありワクワクされていませんか?時、同じくしてこの春よりライフも何年かぶりの新体制のスタートとなりました、スタート時期は特に大事だと思います。ライフ皆で目的をもって頑張っていきましょう。その中で事業所もじやもライフ内連携、協力しながら、あらゆる課題を乗り切っていきたいと思います。

発寒工房・リユースプラザ

現在の環境事業をライフが委託され運営管理を開始したのは2011年の4月でした。今年で八年目になったこの事業は9月に再入札となります。この事業がより革新的な社会的事業となるように、さらに環境事業職員一同一丸となって一生懸命に頑張っています。今年度もよろしく願いいたします。



「2015年共同連北海道大会の様子」

■ 共同連について

「共働を目指す」

これは共同連にとって最も大切な課題です。福祉施設にみられるような「指導する・される」「訓練する・される」「支援する・される」関係を否定し、誰もが力を出し合い助け合って働くことをモットーとしてきました。

現在は、社会的事業所作りを目標とする中で、障害がある人ない人の共働はもとより誰も切らない分けない、排除のない「共働」をめざしています。

「事業所づくり」

労働の場を単なる「生きがいの場」「作業体験の場」に終わらせることなく、経済的にも自立できる場にしようとしてきました。

一般市場での流通とサービスの提供を創出し、労働権の確保、一定の所得保障を進めてきました。90年代前半以降、事業所作りは作業所を超えた共同連の実践の大きな特徴となっています。

「差別とたたかう」

共同連の結成時の名称は「差別とたたかう共同体連合」でした。障害者に関する差別はあらゆる領域で今も存在しています。生活・教育・労働・の分野においても今も分け隔てられている障害者は今も多数いますし、年金制度はあるものの障害者の平均所得は低いまま。能力差別を中心とした障害者差別、社会的排除を受けている人々へのあらゆる差別をなくすことは共同連の永遠の課題です。

「共に生きる社会へ」

障害ある人は、一般就労が難しく、福祉的就労という名の分けられた場でしか働けないのでは共に生きる社会ではありません。1981年の国際障害者年以後、「共に生きる」「共生」は次第に社会に定着はしてきました。しかし、広がる格差や働く場のない人が増えていく一方の今の社会は「共に生きる」に進んでいるとはとても言えません。共同連は、労働を通し差別のない共生社会を目指しています。

1989年西区二十四軒に誕生した「障害者ワープロフロア」は、障害者解放運動には関わっていた人物はいたが、福祉の制度にはまったく疎く、小規模作業所が何たるかも知らず、ただ障害のある人の働く場を作ろうという素朴な想いあるの人間たちのやってやろう!の勢いで始まった。

数年ほど経って、札幌市の小規模作業所連絡会なるものに加盟するが、そこでの会話では指導員同士がお互いを「先生、センセイ」と呼び合っていた。その「先生」呼称に違和感を抱いたボクは、連絡会の会合には出席せずTさんにほとんどその役を押し付けていた。

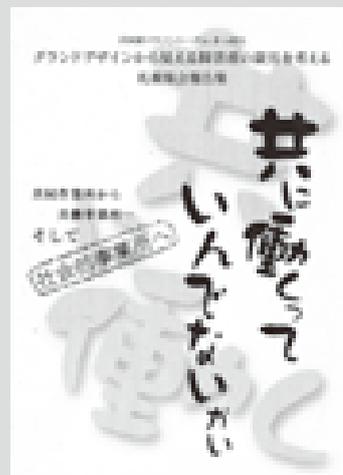
また、当時の作業所は、働く場というよりは「生活の場」という所が多く、「重度の障害者ばかりで働けないんです」という声が聞こえてくる。また指導員の子どもが夏休みに入ると作業所も「長期の夏休み」となる。いろいろな作業所の「変」を感じていたボク等は、「どこかに福祉っぽくない作業所はないだろうか?」と全国の障害者運動団体や作業所巡りの旅に出ることになる。

1998年のこと。大阪の知人である関西学院大学の大谷強教授から「共同連という団体の全国大会が三重県の津市で開かれるよ」と情報をいただいた。早速3名でその共同連大会なるものに参加してみた。そこで聞く話に、ボク等は大仰天。「工賃」ではなく「分配金」といい、指導する・される関係ではなく共に働く事業所。能力主義はとらないなど、ワープロフロア開設時から大切にしてきた「分配金」「能力主義の否定」「指導する・される関係の否定」は、天の巡り合わせと思った。



さらに驚いたのは、分配金の高さである。当時のワープロフロアの分配金は高くても50,000円程度。だが、共同連は凄い!障害ある人もない人も一律の分配金、当時で12万から13万円の分配金という報告で、もはやボクの頭は真っ白となる。

カルチャーショックを受けて帰ってきたボクは、本格的に障害者と共に生き共に働く場づくりを考え、小さな印刷会社の社長を辞め、「ワープロフロア」「おおぞら」という二つの作業所をベースに現在の札幌障害者活動支援センターライフを立ち上げた。しかし、そう簡単に事業が伸張するはずもなく、もんもんとしていたボク等は、2004年、滋賀県の「ねっこ共働作業所」の白杉滋朗さんを招いて本格的に共同連との交流が始まる。2005年にはマラソントーク、2006年には共同連全国大会を札幌で開催。共同連事務局長の斎藤縣三さんは大会の趣旨を「共働事業所から社会的事業所」であると提示してくれた。イタリアの社会的協同組合B型をモデルにした、障害者を含め様々な生きづらさを抱えた人々と共に働く事業所が社会的事業所だという。もうボクはメロメロ。すっかり惚れこんでしまった。



共同連との出会いは、札幌市障がい者協働事業制度に始まり、元気ショップ、元気カフェ、元気ジョブと繋がり、全国には無い障害者の働く支援制度を確立することになる。

もっと早く共同連の仲間たちと出会っていたら、ボク等の事業所運営はもう少し前進していたかもしれない。現状のライフは、ボクの力量不足である。これからは、次世代の人たちが新しい共同連を作り上げ、社会的事業所を発展させてくれるだろう。ボクは、暫く共同連北海道ブロック代表として活動するつもりだが、後継者育成も大きな課題である。

共同連では、全国大会の他に全国各地の事業所の次世代の人達が共同連のベースを引き継ぎ考えながら、色々な活動をしているための交流会や研修会を定期的に行っています。

次世代といわれる人達が、自分達はなにができるのか。今やっていること・これからやろうとしていること・新しいことをみんなで考えたり意見交換を活発に行っています。

今回3月16日・17日に大阪の箕面市で行われた次世代交流研修会にライフからは3名で参加。1日目は「お金のこと」と題して、民泊の清掃代行を運営されている方と障害者事業所のつながりから仕事の内容や、お金の面、工夫や気をつけていることなど色々と聞かせていただきました。

2日目は「いのちのこと」と題して、津久井やまゆり園事件の短編映画を鑑賞し、着床前診断についての話や関西の各市で共に働き共に生きるを実践している形の取り組みや、今後の課題などの話がありました。

全国各地から集まった人と抱えている悩みや課題の共通性をあらためて感じさせられた2日間となりました。



田中 伸和

大会冒頭、共同連代表の堀さんより、「我々は総合支援法をはじめ、公的なお金も使っている。もう一度考えてみよう。共同連でイタリアの社会的事業所のように、公的なお金を使わないでできるモデル事業はないだろうか、3年前から活発な議論がされていた。」とお話がありました。初日はお金の事を深めてみようという研修でした。次世代と呼ばれる人達より、新事業として検討されてきたのが民泊事業です。今回公演した高玉氏との出会いで、新しい刺激を頂きました。深い所まで話を聞く事はできなかったので、追々確認をしていこうと思います。

- オーナーやお客さんをインターネット等で探し、運営代行をする会社として手数料をもらいます。
- そこで出てくる清掃の仕事を障害事業所数社に業務委託します。
- 施設外就労の制度を使い、出来る清掃を請負い、工賃を向上させる。(オーナーになり運営する…わっぱの会での検討会では難しいと判断したようです。)

このままを真似するのではなく、新しいやり方や考え方を皆で検討し、発展させる事はできないかと思いました。関西の事業所のお話、取り組みも聞きました。市民運動や解放運動から続いている事業所で、ほんの一部分だけだと思いますが、聞かせて頂く事ができました。二日目はいのちの事について深めてみよう。自分の中にある差別と向き合い、沢山の差別を生み出している社会に自分たちはどう向き合っていくのか。2016年7月26日におきた、津久井やまゆり園事件と再度向き合う映画を鑑賞し、その後ディスカッションにて皆様のお話を聞いていたら、一部の障害者と言われる人は、自分は殺される側なのだとは認識し、恐怖している事も知りました。自分自身はその恐怖と不条理を、自分の事として想像し、考えられていたのだろうか。内容の濃い2日間でした。研修で学んできた事を今後のライフの活動に活かせるよう勤めたいと思います。

3月16日から18日、大阪の箕面市で共同連研修会があり行かせて頂きました。最初の日の講演で、「民泊運営の中で共に働く工夫」というお話で、民泊の中にベッドメイクや部屋の掃除を障害者の事業としてやっている話を聞いたのですが、地域性、土地柄の違いや人柄の違いを考えると、大阪だからできる仕事なのかなあ？札幌ではまだ民泊自体が浸透していないので難しいと思いました。でもとても面白い話でした。二日目の映画「生きるのに理由はあるの？～津久井やまゆり園事件が問いかけたもの、…」を鑑賞しました。「障害者は不幸しか生まない」というような犯人の歪んだ思想はどこからきたのか？また殺害された障害者はなぜ名前を公表されないのか？ということの問題視した映画で、「殺害された障害者はなぜ名前を公表されないのか？」については非常に腹立たしい理由でした。最初は警察も実名公表の方向で考えていたらしいのですが、殺害された障害者の親、兄弟、親戚等が公表しないでくれと警察やマスコミにお願いした。当初、警察も公表しないという前例がないということで突っぱねたらしいのですが、親族側は二次被害、つまり犯人の仕返しが怖いとの理由だった。警察も特例として名前を公表しないとした。こ

の話を聞いたとき、親族は障害者がいること、そしてその施設に預けていたことが恥ずかしかっただけなんですよ？という思いと、警察もなぜ特例を取ったのか？犯人の仕返しが怖いという理由だったら、ほとんどの事件が実名公表できないということになりますよね？親族と警察にもう一度殺されたという思いで、悲しみと怒りでいっぱいになりました。この映画で被害者の取材があまりなかったなあと少し残念に思いました。その後の講演「いらぬ命はどこにもない！着床前出生前診断の今を知る」では、体外受精で優良な受精卵だけを選んで戻すという話があり、そんな命をふるいにかけてやるような事はしてはいけません。障害者は生まれてはいけないという考えなら「障害者は不幸しか生まない」というやまゆり園事件の犯人と同じ「優生思想」につながる事を国はやっているのではないのか？昔に戻るつもりですか？と思いました。産まれてきた子が障害者で、その障害がなくなる治療ならまだ賛成できますが…。今回の研修で沢山の事を学びました。これを忘れぬよう若い世代に共生共働という事を伝えていこうと思います。最後に一緒に行った坂本さん、田中さん色々ありがとうございました。



共同連マラソントーク in 札幌 ご案内

～わたしたちの働き方改革を考える～

障害があろうとなかろうと、働きたいと望む人は多い。しかし、自分らしい働き方と出会うのはなかなか難しい。雇用関係を結ぶだけが働くではない。独りで起業することもあれば、仲間と協同で起業する方法もある。

また、雇用関係があっても対等平等を原則とした共働の働き方もある。生き辛い世の中だからこそわたしたちの働き方改革を考えたい。

日時 2019年4月20日(土)13:40～17:30(受付開始13:10)

場所 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2.7 5階「520研修室」

参加費 参加費 500円(懇親会参加費4,000円)

Care

ヘルパーステーション 繭結

「感謝の気持ち」 玉川 よし子

隣の芝生を羨むのではなく、まず、今の境遇に感謝しましょう。

喜んで生きるためには、頑張って得た今の境遇に、まず感謝すべきだと思います。その上で、もっと上を目指したいと思う人は、そうすればいいでしょう。

今の境遇は不幸だと嘆きながら、隣の芝生は青いと羨んでいるうちは、生きることを喜べないと思います。

Travel

生活介護 ころや

「共に生き、共に働く」に参加して 佐藤 賢治

いまだに時代は不景気を呼び困った人達を生む。こうした中、矛盾した世の中で私たちは行き続ける。多分そうするしかないからだ。矛盾した世の中だからこそ、自分たちにも出来ることがあるはずだ。だから私たちは生き続けなければならない、それが宿命というものだ。障害は一生付いて回る。それがいま自分たちに出来ることだから...



Sales

共働サービス たねや

「最近のたねやはこんな感じ!」

たねやのお客様のお花の先生が、手作りのリースを持ってきてくださいました。

個展を開いた際にお邪魔させてもらいましたが、きばりやさんのポップコーンをインテリアとして使っていただきました。

その繋がり等で手作り品をたねやに置いてほしいとの話をいただきまして、前向きに検討中です。

お店に立ち寄ってもらえるような商品はもちろん、内装や外装メンバー、スタッフで話し合っていきたいと思っています。

新商品入荷の際はお知らせします。



Cook

コン・ブリオ ひだまり

「照り焼きソースに梅肉?これが意外に合います ささみとアスパラの梅照り焼き」

材料 (2人分)

ささみ	2本	酒	1/2個
アスパラガス	3本	みりん	1カップ
玉葱	1/2個	砂糖	小さじ1
梅干し	2個	生麦(チューブ)	
減塩醤油	小さじ1		1cm

作り方

- ①すじを取って短く切るアスパラも斜め薄切り
- ②肉とささ身を水から煮る沸騰したら火を止めて放置
- ③梅干しの種を取ってたたき減塩醤油、酒、みりん、砂糖、生麦(チューブ)を合わせてたれを作る
- ④油少々でささみとアスパラを軽く炒める
- ⑤たれを加えて煮絡めて完成

【コツ・ポイント】

- ◎ささみのすじを取る



平成30年度産低農薬米『ゆめぴりか』 年間契約販売のご案内

年間契約
受付中!

北海道の『ゆめぴりか』

こころを込めて丁寧に精米してお届けいたします

2018年度新米入荷!

こころやでは、ご注文をいただいてから精米し、お届けしております。精米したての新鮮なお米の美味しさを、ぜひご賞味ください。



北海道の優良品種
極良食味米

3kg 1,590円

5kg 2,650円

契約農家による低農薬米 だから安心・安全—

北海道勇払郡厚真町で、自然と付き合いながら農業を続けて50年、本田農場の『ゆめぴりか』を使用しています。

山深い厚真川の水田用水を利用し、除草剤・イモチ防除剤を各1回しか使用しない低農薬栽培をすることで、安心・安全な美味しい米づくりに取り組んでいます。



●厚真町
本田農場産

お客様のお好みに応じて
精米いたします

玄米

7分づき

白米

美味しくて栄養たっぷりの「7分づき」

玄米と白米の間のお米で、両方の良さを味わう方法が「7分づき米」です。玄米の栄養素と白米の美味しさの“いいとこ取り”として今大きな注目を集めています。白米と比べるとビタミン・ミネラル・食物繊維を豊富に含んでいるため栄養面でも優れています。

年間契約販売は

10kg単位のご注文からとなります

《有効期限》

2018年10月1日～2019年9月30日の1年間

5%
OFF

60kg以上年間契約をしていただくと、値段より5%引かせていただきます。

通常31,800円が → **30,210円**

1,590円OFF!

送料
無料

年間60kg以上ご契約のお客様は、配送料無料とさせていただきます。

※対象は琴似エリアのみとさせていただきます。周辺応相談。

お買い求め・年間契約のお申込みは



生活介護事業

こころや

札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションモモ1F

TEL 011-614-1871 FAX 011-613-9323

平成30年度産低農薬米『ゆめぴりか』年間契約販売申込書

ご契約者	フリガナ					
	お名前					
	住所	〒	—			
	電話番号	()	—	FAX		
		携帯電話				
お届け先	<input type="checkbox"/> 申し込み住所と同一 <input type="checkbox"/> その他（下記に記載の住所） 店頭受取（いずれかに○）【こころや・たねや・ひだまり】					
	〒	—				

契約数量	年間	Kg
------	----	----

お支払い方法	<input type="checkbox"/> 現金支払（ご来店予定日 月 日） 営業時間：平日10:00～17:00
	<input type="checkbox"/> 銀行振込（ご入金予定日 月 日）

振込先	銀行名	<input type="checkbox"/> 北洋銀行 琴似中央支店	口座番号	普通 4660616
	口座名	特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ こころや		
	銀行名	<input type="checkbox"/> 北海道信用金庫 琴似支店	口座番号	普通 4297231
	口座名	特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ こころや		
	銀行名	<input type="checkbox"/> ゆうちょ銀行	口座番号	振替口座 02710-4-63485
	口座名	NPO札幌障害者活動支援センターライフ		

※振り込んだ銀行名にチェックを入れてください。

申込書郵送先	生活介護事業 こころや 〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションモモ1F TEL 011-614-1871
--------	---

FAX (011)613-9323

事務記入欄						
こころや記入欄	価格	契約表	弥生入力	入金	日付	受付担当者

ライフ事業所一覧

◇NPOライフ本部事務局

TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

作業 共働事業所きばりや 就労継続支援事業A型
TEL 011-644-5533 FAX 011-613-9323

生活 ころこや 生活介護事業
TEL 011-614-1871 FAX 011-613-9323

〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F

飲食 コン・プリオひだまり 就労継続支援事業B型
TEL 011-615-4131 FAX 011-615-4132

〒063-0812
札幌市西区琴似2条3丁目2-37 サンハイム1F

販売 共働サービスたねや 就労継続支援事業B型
TEL 011-613-0611 FAX 011-644-0088

介護 ヘルパーステーション繭結(ゆい) 指定居宅介護事業
TEL 011-623-2505 FAX 011-644-0088

〒063-0804
札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1F

営業 アウトソーシングセンター元気ジョブ 札幌市委託事業
TEL 011-596-6581 FAX 011-596-6582

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園103

印刷 共働事業所もじや 札幌市障がい者協働事業所
TEL 011-596-6583 FAX 011-596-6584

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園104

相談 相談室らいふ 相談支援事業所
TEL 080-6076-1474 FAX 011-596-6584

〒064-0808
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園203

飲食 Cafe de Kibariya(カフェ・ド・キバリヤ) 就労継続支援事業A型
TEL・FAX 011-758-6533

〒060-0808
札幌市中央区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内3F喫茶コーナー

環境 リサイクルプラザ発寒工房 札幌市委託事業
TEL 011-662-7815 FAX 011-662-7816

URL <http://www.reuseplaza.jp/10hassamu.html>

〒063-0835
札幌市西区発寒15条14丁目2-30

環境 札幌市リユースプラザ 札幌市委託事業
TEL 011-375-1133 FAX 011-375-1155

URL <http://www.reuseplaza.jp>

〒004-0003
札幌市厚別区厚別東3条1丁目1-10

4月

イベントカレンダー

4月のイベントの予定はありません

最新の情報は、<http://www.npolife.net>
ホームページを
ご覧ください！

ヘルパーステーション 繭結(ゆい)

求人
情報



■ 訪問介護スタッフ
正社員・パート同時募集！

ブランクのある人も
実務経験がない人も大歓迎！
利用者さんと一緒にできることをひとつひとつ
増やしていきましょう！

詳しい詳細は
ライフHP(<http://www.npolife.net/>)
またはライフ本部(011-633-6666)までご連絡
ください。

■ インスタグラムはじめました！



ゼン太郎

■ たねや WEB SHOP



ご協力ありがとうございます

2月分・順不同・敬称略

■アドポケット購読料

矢野 潤 遠藤 昭 佐藤 隆 濱中 邦彦
福田 敏夫 大友 勝美 栗田 弘子 東 真紀子
横路 由美子

■寄付金

遠藤 昭

■賛同会員会費

高橋 亨 福田 敏夫 大友 勝美 横路 由美子

■ビル建設基金

我妻 武 福田 敏夫

今月の1枚



「5月は円山動物園ツアーがあります!この可愛いお尻の正体は?!」

ライフカンパ のご案内

ライフの活動に共感してくださる皆様方からの応援を是非ともお願いいたします。

■北洋銀行 琴似中央支店 普通 4606735

特定非営利活動法人

札幌障害者活動支援センターライフ

理事長 我妻 武

■北海道信用金庫 琴似支店 普通 3296744

特定非営利活動法人

札幌障害者活動支援センターライフ

理事長 我妻 武

■ゆうちょ銀行 振込口座 02710-4-63485

NPO札幌障害者活動支援センターライフ

※アドポケットに同封の払込取扱票もご利用になれます。

編集後記

あんなにも積もっていた雪が瞬く間に溶けるのを見るともうすぐ春が来るのだと感ずると同時に時の流れの速さに戸惑いを隠せません。いつもこの時期になると今の自分は前の自分と変わったのか、前に進めたのか考えてしまいます。

自分の新年度の抱負としては、初心の緊張感を忘れないこと、そして新しい物事に対する意欲を行動に移していければと思っています。(佐藤 之寛)

月替わりコラム

子供たち教えられたことに

カフェ・ド・キバリヤ 大加瀬 まどか

3月11日で東日本大震災から8年経った。そして、北海道胆振地震から半年が経とうとしていた忘れていた頃に、久しぶりに大き目の余震があった。スマホのアラームがなったとたん、長男と長女が居間のテーブルの下に潜り込み、長女が「○○ちゃん!早くテーブルの下に入って!!」と2歳の次男を呼んでいた。保育園で地震がきたことを想定して避難訓練をしている成果が実際に家でも出ていた。揺れが収まってからは、長男が夫と一緒にもしもの時のための荷物を準備していて感心した。我が家の子供たちは、当時はまだ全員が保育園児だったが、長男と長女は自分の身を守ることができ、長女は幼いながらに次男の心配もできる事に驚かされた。普段は言うことも聞かないし、遊ぶことに夢中な子供たちも、いざとなれば学んだことをしっかり活かせるようだ。親である私でさえオロオロしてしまうのに、しっかりと訓練を行ってきただけの子供たちの方がスムーズに行動していて、しっかり学ばなくてはいけないと恥ずかしくもなった。何が言いたいかというと、何事も積み重ねが大切で、震災があったことを忘れてはいけないということ。いつ何があっても対応できるように…。

アドポケット
2019年4月号
No.217 定価 100円

2019年4月10日(毎月10日発行) HSK通巻番号565号 1973年1月13日第三種郵便物承認 発行人=北海道障害者団体定期刊行物協会
編集者=我妻 武

◇特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センターライフ

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

E-mail main_lifemail@npolife.net ホームページ <http://npolife.net/> 郵便振替口座 02710-4-63485